

台湾の生徒 本県旅行、笑顔 4年ぶり来訪 青南高で交流



好きな漫画などの話で盛り上がる慈済大学
付属高級中学(右側)と青森南高の生徒たち

台湾東部の花蓮市にある
慈済大学付属高級中学(李
玲恵校長)の生徒ら約35人
が、教育旅行の一環で24日
から本県を訪れている。県
によると、新型コロナウイルス
ス禍のため、台湾からの
教育旅行受け入れは4年ぶ

り。25日は青森市の青森南
高校(久保田千夏校長)を
訪問し、外国語科の3年生
34人と親交を深めた。
中高一貫教育の同高級中
学は、グリーンツーリズム
推進を目的とした県などの
誘致を受けて2017年か

ら来県、各地の高校と交流
を重ねてきた。今年の教育
旅行には、中学2年から高
校3年までの生徒が参加。
青森南高とは3月にオンラ
イン交流を行った経緯もあ
り、訪問が実現した。

青森南高では、両校の生
徒がグループに分かれて英
語で会話。最初は緊張の面
持ちだった生徒たちも、好
きな食べ物や漫画の話で盛
り上がり、笑顔の輪が広が
った。両校の間で姉妹校締
結の覚書も交わされた。

同高級中学の林彦均さん
(高校2年)は「高校の雰
囲気が素晴らしかった。楽
しかった」、青森南高の千
葉想代子さんは「自分の英
語の発音が伝わりづらい部
分もあったけど、ジェスチ
ャーや表情で乗り切ること
ができた」と語った。

同高級中学一行は25日、
県庁に三村申吾知事を訪ね
たほか、青森中央学院大学
との学術・教育交流に関す
る覚書の調印式に臨んだ。
本県滞在は27日までの予定
で、平川市では農家民泊を
体験、黒石市や十和田市も
訪問する。(安達一将)